

平成 30 年 5 月 9 日現在

機関番号：12601  
研究種目：基盤研究(B) (一般)  
研究期間：2015～2017  
課題番号：15H03250  
研究課題名(和文) インド都市史の研究

研究課題名(英文) A Study of Urban History in India

## 研究代表者

水島 司 (Mizushima, Tsukasa)

東京大学・大学院人文社会系研究科(文学部)・教授

研究者番号：70126283

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 11,400,000円

研究成果の概要(和文)：本研究の成果は、1. 南インドの主要都市に関するGIS(地理情報システム)インフラを整備し、各都市のGISベース・マップを今後の都市研究の基礎的資料として活用できる形にした、2. 都市史研究の推進に必要な各種史料を整備した、3. 旧マドラス管区全域の1871年国勢調査の村別統計をデジタル化し、それらをGISに統合した、4. インドで登記された約12万の株式会社や銀行関係の情報をデジタル化して分析し、都市形成の地域的特徴を明らかにした、5. マドラスの内外交易統計を処理し、域内外の経済関連を解明した、6. 院生を含む若手研究者を育成すると共に、研究成果を内外に発信した等である。

研究成果の概要(英文)：Some of the results of the research project were (1) to prepare the GIS infrastructure for the study of historical formation of Indian towns, (2) to collect colonial documents related to the topics, (3) to digitize and geo-reference all the villages located in the Madras Presidency from the village statistics in the 1871 Census and integrate the information with GIS base maps, (4) to digitize records on all the joint stock companies and banks in India and to clarify regional characteristics of town formation, (5) to digitize and analyze the role of Madras in its domestic/international trade in the 19th century, and (6) to bring up younger generation of scholars in the field and to publicize the results of the research project in Japan and abroad.

研究分野：歴史学、グローバル・ヒストリー、南アジア研究

キーワード：GIS インド 貿易都市 宗教都市 工業都市 都市形成

## 1. 研究開始当初の背景

本研究は、申請者が平成26年3月まで5年間にわたって研究代表者として遂行してきた「インド農村の長期変動の研究」(基盤研究S)の成果と、そこから浮かび上がってきた都市の歴史的形成過程の重要性への認識から、新たな課題として植民地期のインド都市研究に正面から取り組み、激変しつつあるインドの都市問題への歴史的な理解を格段に進めようとして計画した。申請者は、上記研究で、インド農村部に関する世界で最先端のGIS(地理情報システム)インフラを構築した。しかし、同研究は必ずしも都市部を対象としなかったために、都市部に関する整備は部分的にしか行い得なかった。そのため、本研究では、GISインフラに関する欠落部分を整備し、さらに、植民地都市と地方都市に関する18世紀以来の成長過程の実証的な事例研究を織り込み、インド都市史研究における先端的な研究を世界の研究者に示そうとした。

## 2. 研究の目的

本研究は、都市史研究の基盤となる地図、統計類、政府文書などをGISと関連させて整備し、幾つかの都市に関する事例研究を折り込み、インド都市史研究のモデルを提示することにあつた。

## 3. 研究の方法

(1)本研究では、GISをベースとして進めるという方針の下に、地図や統計類、各種文書資料の収集と情報のGISへの統合を進めた。

地図に関して、インドに関する都市図は、古い時期のものを、インド国立文書館、英国図書館地図部門、シカゴ大学図書館から入手した。また、対象都市に関する各種資料に地図がある場合は、それらを取り出し、いずれもデジタル化と緯度経度情報を加えたGISベース・マップ化を進めた。現在の都市に関するものは、インドのGIS関連会社から可能な

限り入手した。GISベース・マップには、行政地区、主要施設、土地利用区分を基本的な要素としてもたせることとした。

(2)都市史研究は、都市だけを切り離して分析すべきではなく、農村との関係の中で分析していく必要がある。史料的に見て最も網羅的な地名と各種統計を備えているのは1871年国勢調査の村落統計であるが、そこに記されている情報を都市研究と結合するためには、村落統計に出てくる全ての村名を正確に地図上に表示できるシステムが必要となる。この目的のために、これまで構築してきたウェブ上の地名検索システム India Place Finder に、本研究で入手した都市関係の空間情報を加えた。さらに、それを利用して、南インド全県全村の1871年時点の村落統計情報をGIS化する作業を行った。

(3)地図関係の作業に加えて、18世紀後半から19世紀前半にかけての植民地関係史料を中心に、都市内部の社会関係に関する各種文書史料の入手、入力、分析、GISベース・マップへの統合を進めた。植民地関係の史料は、英国図書館で写真撮影を集中して行い、関連する大量の記録類を入手して分析を進めた。加えて、18世紀の各種村落史料のGISへの統合作業を行った。

(4)事例研究として主に取り上げたのは、それぞれ植民地都市、宗教都市、工業都市の典型例となるマドラス、カーンチープラム、コインバトール3都市であったが、加えて、八幡と並ぶアジアを代表する鉄鋼都市ジャムシェドプール、インドの代表的商業都市ムンバイ、および、18世紀からの史料に恵まれるブネーも、研究協力者と連携して取り上げた。それぞれの都市に関し、誕生以来、でなければ可能な限り古い時期からの形成史を関連史料から導き、それぞれが果たしてきた機能をインド社会の史的变化の中に位置づけるように努め、その分析結果から、それらの都市を



興工業都市コインバトールでの工場制綿業の展開が、図3に示されるように、綿業カーストの農村部での広汎な存在を前提として展開したことも明らかとなった。

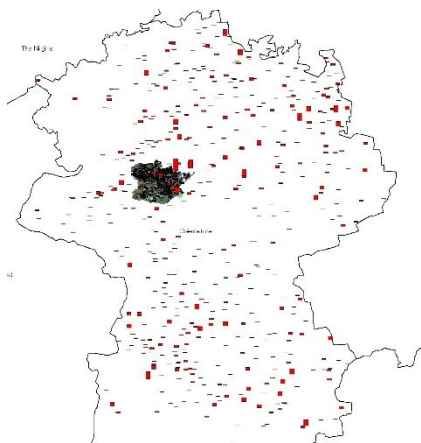


図3 Coimbatore県での綿業カーストの分布 (1871年)

(4) 収集した大量の史料の内、特に注目したのは、インドで登記された延べ約12万の株式会社の情報をもとに1906年から1952年に渡って収めた*List of Joint Stock Companies*であった。この史料には、会社の所在地が管区/藩王国、州/県、都市名、地区名、通り名、番地、さらには建物名まで記載されている。これに、カルカッタ、ボンベイ、マドラスなどの各都市に所在する商業会議所、銀行、貿易商社、商人、各種専門職に関する詳細情報が記されている *Thacker's Indian Directory* や、銀行・金融会社について資本金、準備金、預金、現金勘定、本・支店所在地を記載した *Statistical Tables relating to Banks in India* などからの情報を加えることにより、GISを用いた格好のインド都市史研究が可能となった。それにより、たとえば南インドでの株式会社の分布を示す図4と、西インドでの分布を示す図5を比較すると、西インドでは圧倒的にボンベイに会社が集中しているのに対し、南インドでは多くの都市に分散している事実や、大恐慌を経ても、インドでは極めて活発な経済活動が展開されていた事実など、インドの都市発展の地域的・時期的特徴が一目瞭然となった。

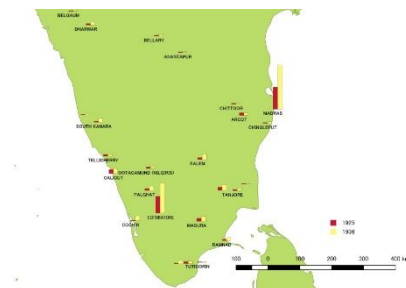


図4 南インドでの株式会社の分布 (1925, 1936)

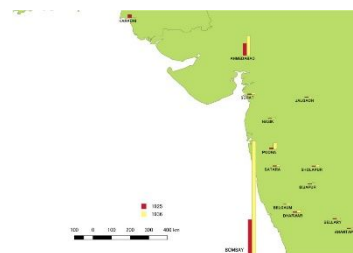


図5 西インドでの株式会社の分布 (1925, 1936)

(5) 事例研究としてとりあげた幾つかの都市のうち、マドラスは内外交易の拠点としても大きな役割を果たしてきた。本研究では、19世紀初頭から世紀半ばにかけての *Reports on External and Internal Commerce of Madras* をはじめとする交易関係史料を大量に入手し、その一部の入力とGIS分析を進めた。たとえば、図6と図7は、マドラスのマドラス管区内交易について1840~41年度の部分を図示したものである。それにより、マドラスと南インド諸都市との経済関係が解明されることになった。

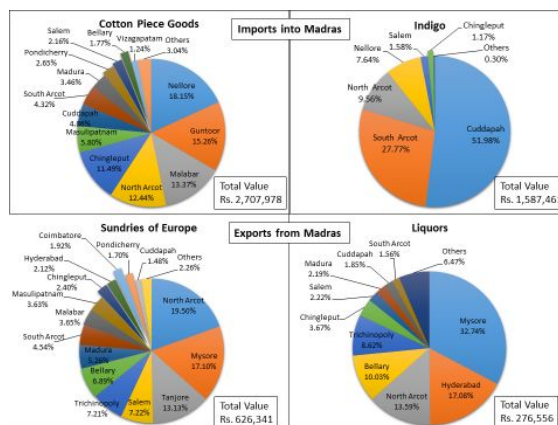


図6 マドラスの主要品目別域内交易 (1840)

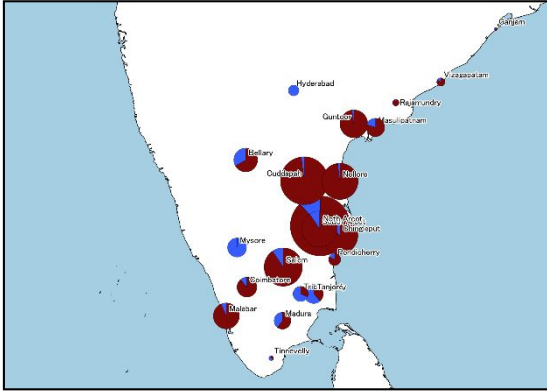


図7 マドラスの管区内交易 (1840 - 41)

(6)本研究では、院生を含む若手研究者を研究協力者に入れて育成すると共に、研究参加者による研究成果の海外発信にも力を注いだ。研究代表者と研究協力者は、オランダの国際社会史研究所、シンガポールのアジア世界史会議、京都の国際経済史学会、デリーのインド歴史協議会、マニラ・中国・台湾で開催されたANGIS (アジア歴史地理情報ネットワーク) 国際会議、ジャワハルラルネルー大学などの海外の学会・研究機関での報告や講演、および海外研究者を招いての日本での学会・研究会などで積極的な成果発信を行った。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[学会発表](計15件)

1. Tsukasa Mizushima, Historical Processes of Industrial Development in Coimbatore, The 6th ANGIS International Meeting, 2017
2. Michihiro Ogawa, The Formation of Economic Zones in the Bombay City in the Late Nineteenth Century, The 6th ANGIS International Meeting, 2017
3. Shinsaku Kato, Sea-borne Trade of Madras from the Mid-Nineteenth to the Early Twentieth Centuries, The 5th ANGIS International Meeting, 2016

4. Tomotaka Kawamura, Banks and Financial Institutions in the Madras Presidency, 1906-1939, The 5th ANGIS International Meeting, 2016
5. Michihiro Ogawa, The Development of Bombay City after the Opening of the Railway in the Mid-Nineteenth Century, The 5th ANGIS International Meeting, 2016
6. Shohei Okubo, An Analysis of Urban Occupation Patterns in the City of Madras from the Late 19th Century to the Early 20th Century, The 6th ANGIS International Meeting, 2016, The 5th ANGIS International Meeting, 2016
7. Ippei Sekido, Urban Development of Yahata in the Early 20th Century, The 5th ANGIS International Meeting, 2016
8. Tsukasa Mizushima, GIS-based Analysis of Demographic and Social Change in South India during the Colonial Period, ICHR-JSPS Joint Symposium on Economic History, 2016
9. Tsukasa Mizushima, Keynote Speech: Who takes Leadership and What Role does ANGIS play in Emerging Global History? The 4th ANGIS International Meeting, 2015
10. Tsukasa Mizushima, Explaining Population Density in Early Modern India, Seventeenth World Economic History Congress, 2015
11. Tsukasa Mizushima, A GIS Approaches to Land Development and Social Change in India, Seventeenth World Economic History Congress, 2015
12. Tsukasa Mizushima, A GIS-based Study on the Emergence of Small and Medium Scale Towns in Pre-Independent South India, The 3rd Conference of the

GIS-based Global History from Asian Perspectives, 2015

13. Tsukasa Mizushima, A GIS Analysis of Village Land Registers in South India between 1870s and 1920s, The 3rd Conference of Asian Association of World Historians, 2015
14. 水島 司、歴史地理情報システムとアジア研究、シンポジウム東洋学・アジア研究の新たな振興をめざして、2015
15. 水島 司、歴史空間学の可能性、第113回史学会大会公開シンポジウム、2015

〔図書〕(計2件)

1. 水島 司(編) 勉誠出版、『環境に挑む歴史学』、2016、404
2. 水島 司(他編) 名古屋大学出版、『アジア経済史研究入門』、2015、390

〔その他〕(計9件)

1. Tsukasa Mizushima, Introducing GIS to Colonial History of India, International Workshop on New Trends in Historiography, Government Arts College, Chennai, 2018
2. Tsukasa Mizushima, South Indian Colonial Development through a GIS Analysis of Archives Records, Tamilnadu Archives, Chennai, 2017
3. Michihiro Ogawa, The Comparison of City Growth in Yahata and Jamshedpur in the 20th Century from Spatial and Demographic Perspectives, The International Conference on Comparative Study of City Growth in India and Japan, Kanazawa, 2017
4. Ippei Sekido, Urban Development of Yahata in the Early 20th Century, The International Conference on Comparative Study of City Growth in India and Japan, Kanazawa, 2017

5. Shinsaku Kato, The Role of Madras in Both the Internal and the External Trade, 1840/41: A Statistical Analysis, The 2nd Workshop on Asian Trade Networks in the Long 19th Century, Toyama, 2016
6. Tsukasa Mizushima, Hinterlands and Commodities in Early Modern India, Visiting Speaker Seminar, European University, Frankfurt Odar, 2015
7. Tsukasa Mizushima, From Shares to Land: Colonial Transformation of Rural India, Big Questions/Big Ideas Conference, Institute of Social History, Amsterdam, 2015
8. Tsukasa Mizushima, A New Interpretation of Indian Population Movement in Pre- and Early Census Periods, Vietnam National University, Hanoi, 2015
9. 水島 司、アジアにおける空間情報インフラの状況と歴史研究の可能性、学術俯瞰講義、2015

ホームページ等

India Place Finder: <http://india.csis.u-tokyo.ac.jp/>  
インド都市史の研究: <http://www.l.u-tokyo.ac.jp/~hsti/>

6. 研究組織

(1)研究代表者

水島 司 (MIZUSHIMA, Tsukasa)  
東京大学・大学院人文社会系研究科・教授  
研究者番号: 70126283

(4)研究協力者

小川 道大 (OGAWA, Michihiro)  
関戸 一平 (SEKIDO, Ippei)  
川村 朋高 (KAWAMURA, Tomotaka)  
嘉藤 慎作 (KATO, Shinsaku)  
大久保 翔平 (OOKUBO, Shohei)